

シンポジウム

都市文化と芸能興行

ここに掲載するのは、2003年9月20日に「都市文化と芸能興行」を共通テーマとして開催されたシンポジウムでの報告をもとにした論稿である。このシンポジウムは、AチームとCチームの共催で開かれた。

大阪市立大学大学院文学研究科のCOE事業の中には、ロンドン大学のガーストル教授を中心として企画が進められている大英博物館の役者絵に関する特別展を意義あるものとするため、早稲田大学・立命館大学・大阪市立博物館とともに共同研究を進めることが含まれている。その中で、大阪市立大学には、芝居や役者を都市の社会と文化の文脈の中で理解することが求められている。

芝居や役者を都市の社会と文化との関わりで位置づけていく上で、もっとも直接的に手掛りを与えてくれるのが、芸能興行である。今後、継続してこのテーマに取り組んでいくことになるが、その出発点として、最新の研究状況がどうなっているか、新しい分析視角はどこにあるか、こうしたことを見定めるべく、今回のシンポジウムは開催された。

神田由築氏は、近年、著書『近世の芸能興行と地域社会』を刊行され、こうした分野で最も注目されている新進の歴史研究者である。神田氏には、これまで発表してきた大坂の芸能興行に関する論考をベースに、現時点での総括的な展望を提示していただいた。鈴木博子氏は、大名藩邸に残された記録から、屋敷内で行なわれる芝居の上演を積極的に掘り起こす作業を継続してきた。これを踏まえて、鈴木氏には、これまで文化史の史料としてはほとんど顧みられることのなかった藩邸記録の分析を通して、芝居や役者の状況を読み込む視角を提示していただいた。

当日は、さまざまな分野の参加者を得て、活発な議論が行なわれた。このシンポジウムの成果を今後活かすため、本号に掲載する。

(編集委員会)

シンポジウム「都市文化と芸能興行」

日 時：9月20日(土) 13:00~17:00

会 場：大阪市立大学・田中記念館 第2会議室

共通テーマ：「都市文化と芸能興行」

報 告：神田由築氏(お茶の水女子大学)

「都市文化と芸能興行—大坂を中心として—」

鈴木博子氏(大阪市立大学大学院生・日本学術振興会特別研究員)

「江戸の屋敷方における操・歌舞伎」